

やすらぎ

2025.1

January

Vol.96



田子町

田子町・大黒森の山頂近くにある、
天空の宿 ロッジカウベルから眼下を
眺める。

大黒森は標高約700mとさほど
高くない山だが、春から秋まで寒暖
差のある早朝には、朝陽を浴びた雲
海が美しく広がっている。空はもち
ろん、自分の目線に雲が見えるのも
素晴らしく、夜は星も煌めき、訪れ
た人を感動の世界へと引きなってい
ける。

左側は八戸市方面。天気がよく澄
んだ空気の日には、太平洋に浮かぶ
タンカーや、夜は八戸港の灯りも見
ることができる。

ロッジカウベルは、近年リニュー
アルオープンした宿泊施設。街灯も
ほとんどない大自然の中の一軒宿
は、宿泊客に開放的な気分を与えて
くれる。

そして、もう一つの魅力が天空の
サウナ。野外に設置されたフィンラ
ンド式のバレルサウナは、桜の老木
を薪として活用。水風呂もあり、山
の風を浴びてここでしか味わえない
「整う」が体験できる。

今年の春からは、バギーも登場し
て、自然ブラスアルファのワクワク
が、みんなを待っている。

ロッジカウベルの手前にあるのは、
三戸郡唯一のスキー場・創遊村
229スキーランド。毎年2月中旬
にはスキーとスノーボードが楽しめ
るスノーフェスタ、3月2日にはソ
リワングランプリが開催され、大勢
の人で盛り上がる。

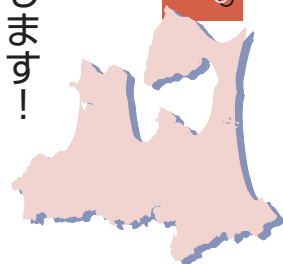
農業に携わりながら

板柳町の地域おこし協力隊定住第一号を目指します！

板柳町地域おこし協力隊

宇田川 和義さん(30歳)

理恵さん(41歳)



「人生、やりたいことがあったら、チャレンジした方がよくないですか？」

そう話すのは、板柳町の地域おこし協力隊員・宇田川和義さんと理恵さんご夫妻。青森市発祥の歴史を紡ぐ神社で、神主と巫女をしていた2人は、2022年

(令和4年)7月に板柳町へ移住。知識、経験、ゼロから今、りんご農家を目指している。

和義さんは神奈川県横須賀市出身。宗教に興味があり國學院大學で神主の資格を取得。冬休みに神社のアルバイトで訪れた青森が気に入る、そのまま就職して神主として5年間勤めた。

青森市生まれの理恵さんは、高校時代に教師から「あなたなら巫女にびったり」と言われて就職。御守の授与から例大祭での舞の奉納まで20年間頑張った。

「彼が24歳の時、私に歳も歳だから結婚したいでしょって言って、一緒に

なっただけです。ひどい話でしょ」と理恵さんは笑う。和義さんは「波長が合ったんですよ」とボソリ。

結婚後「農業をやりよう」と言い出したのは和義さんだった。「実は、神社のサイクルは農業と一緒に。春の豊作祈願、秋の収穫感謝など、神事には一次産業で作ったものが供えられるから興味を持ちましたね」理恵さんは「いきなり農業をやりたいって言い出して、私はやりたいなラついていく。でも中途半端はダメって言いました」と振り返る。

神社で知り合った板柳町のりんご農家へ相談に行き「土に携わる仕事は、合う、合わないがあるから、まずは試しにうちに来ないか」と言われ弟子入り。板柳町役場で地域おこし協力隊のことを知り、制度を活用して町に移住した。

「基本的には毎日園地に出て実習です。夏から始めたので、

実すぐり、葉とり、ツル回し、収穫、剪定。私、青森育ちなのに毎日が発見の連続です」と理恵さん。和義さんは「町の光景にびつくりしました。町全体で同じ作物であるりんごを育て、そ

こに季節を感じる。冬は雪を被って色を消し、春になると1週間くらいで一面緑に、秋は畑が真っ赤に染まるんです」と感動を隠さない。農作業のほかに、町の特産品を県内外で販売するイベントも手伝っている。

「とにかく必死だから、キツイとか感じていた時間はなかった。移住して私たちは四六時中一緒に、不安も感じなかったしね。農業は人間の力ではどうにもならない天候と向き合わなければならぬけれど、りんごは手をかければかけた分、ちゃんと応えてくれるんです。移住して1ヶ月で大雨洪水に見舞われた時など、日々、師匠夫妻をはじめ、役場の方々が本当に親切にしてくれました。町主催の林檎まるかじり塾にも参加させてもらって、りんご農家の1年生と一緒に学んでいます」と前向きに話す2人。

「師匠の奥さんが、毎年同じ天候はないから毎年1年生って



いうんです。その通りだと実感しています。移住して感じたのは、農作業を通して2人ともありのままでいられるということ。皆さんに助けられ、そのご恩に報いるためにも、板柳町の地域おこし協力隊定住第一号を目指し、りんご作りに励んでいきたいです」と爽やかに語った。



清水典子の

見つけた！あのおもり人。

【第53回】

人と人のご縁を大切に

大将と二人で店を切り盛り

寿司割烹居酒屋女将

佐々木 勝子さん（中泊町出身）

東京銀座木挽町、料亭が立ち並ぶ一角のビルの中に『寿司割烹居酒屋』はある。喧噪から離れ、心地よい空間が広がる店内。明るく気風のいい女将と穏やかな大将が笑顔で迎えてくれる。

市の出身。夫婦二人で店を切り盛りしている。

「青森出身の女将がやっているけれど、寿司屋だから青森料理の店ではないのよ。青森鼈貝の寿司屋。お酒は青森県のもので揃えています。だって青森の美味しいお酒、みんなに飲んでもらいたいでしょう。たまにゲスト酒として大将の出身地松本のお酒『大信州』があつたりするけど」とにっこり。

して働いてきたけれど、コロナ禍で休みができて、大将に青森を見せてあげたいなと思っていました」

20代で青森県から上京した。お客さんに青森のことを尋ねられても、自分が青森のことを何も知らないことに気づいたという。「親不幸ならぬ青森不幸をしてきたなと思いました」

2023年の夏、大将と二人で津軽半島を巡った。五所川原の立佞武多も初めて見学した。24年秋には奥入瀬溪流、40年ぶりに弘前公園を歩き、黒石市のこみせ通り、中野のもみじ山も訪ねた。故郷青森県の自然や風土に触れ、青森ファンの気持ちで分かった。「八甲田山はどれですか？つて地元の人に尋ねたら、八甲田山という山はないって初めて知りました。実際に行ってみると、お客さまにも話せないですよ」



365日、朝から晩まで一緒

で過すご夫妻は仲良し。自宅から二人乗りのバイクで店まで通勤する。土曜日は二人で豊洲に買い出し、日曜日は一緒に野菜の買い出し。小鉢ものは勝子さんの担当。食材を見て、二人で新しい料理を研究する。勝子さんの特製ポテトサラダのファンも多い。ぼつと休みができる

と、二人でバイクに乗って出掛ける。関東圏内ならどこでもバイクでOK。

「今までひたすら働いてきましたが、コロナ禍を経験し、いつ何があるか分からない、ちよつとは楽しめないといけな

いつて思いましたね」

人の繋がり、ご縁の大切さを実感する日々だという。「子ども

の頃はね、地元の付き合いやお世つかい、あそこの娘だよ、みたいな濃い関係は苦手でしたが、今は人と人との繋がり、ご縁は不思議、ありがたい、大切だなと感じるようになりました」

季節、季節の旬のもので工夫して、小鉢ものを作り、握るの

で『居酒屋』の献立はお任せ。いつ、誰が来てもいいように用意して待っているのは無駄が多くなつてしまうので、コロナ禍以降は予約のみに変えた。その代わり火曜日から金曜日は、午前11時半から午後1時半まで手ごろな

どんぶりもののランチを用意している。

将来の目標は気楽にみんなが集えるような店を開くこと。「今は大将と二人、もう少しここで頑張りたい。カウンターに座つて、お寿司と会話を楽しんでもらえれば」。夢を語る勝子さんの笑顔が眩しかった。

ホッとタイム

2024年は2回ほど、

『やすらぎ』に連載している『見つけた！あのおもり人』に登場した方々の話をする機会に恵まれた。いつの間にか連載も50回を超え、青森県出身、全国で活躍する多彩な方々と出会ってきた。県出身の方々取材すると、みなさんの故郷に対する思いの強さを実感する。心の奥底にふるさとへの思いを抱きつつ、それぞれの地で頑張っている。県出身者の県外での活躍を地元の方に紹介すると、新鮮に感じてもらえることが多い。どんな方に出会えるのか、今年も楽しみにしたい。

（清水典子）



板柳町ふるさとセンター本館

街角インタビュー



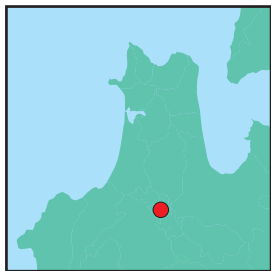
今年度リニューアルされたバーベキュー場



りんごの里のコテージ

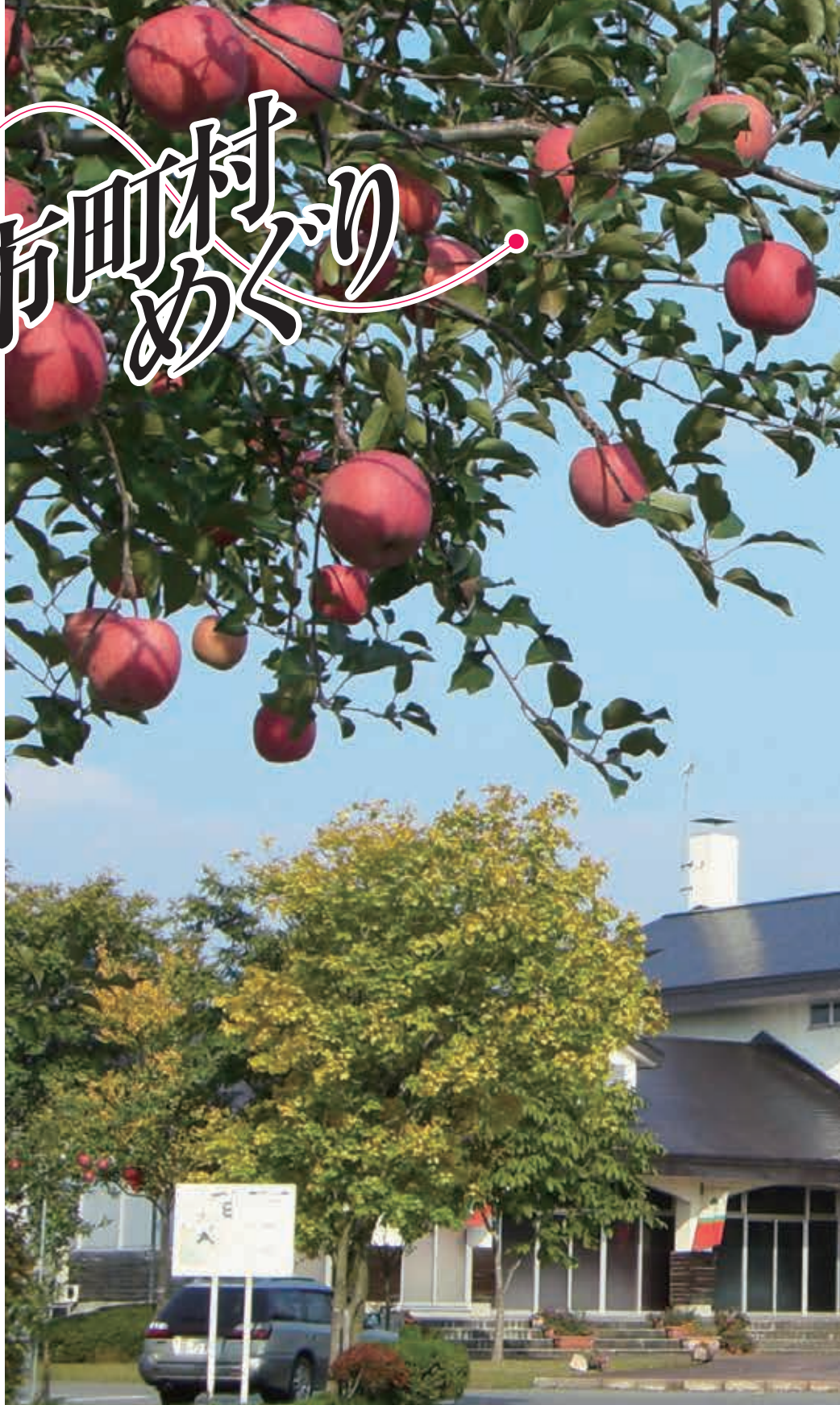


青柳館温泉大浴場



[板柳町]

市町村めぐり



津軽平野の中央、岩木川と十川の流域にりんご園と広大な田園が広がる板柳町は総面積約42平方キロメートル、人口約12000人。りんごを米を中心とした農業の町だ。その昔、岩木川の東岸・龍淵寺の境の外に大きなイタヤとヤナギの木があったため「イタヤナギ」と呼ばれるようになったという。りんご栽培の歴史は、明治9年からと古く、現在、全国の町村でりんごの栽培面積・生産量は日本一。りんごまるかじり条例があることでも知られている。

りんご園に囲まれた町の拠点施設「板柳町ふるさとセンター」は、学んで、遊んで、泊まれるりんごの里。りんご資料室、加工場、もぎとり園、多種多様なりんごの木が並び見本園、農産物直売所とれたて市、りんご草木染やりんご菓子などの工房、温泉大浴場、足湯、レストラン、コテージのほか、今年度リニューアルされたバーベキュー場は人気の施設。一日中楽しめる、町のランドマークとなっている。

板柳町農産物直売アンテナショップ「とれたて市」

りんごをはじめとした果物、野菜、山菜、加工品など、板柳町でとれたばかりの新鮮な農産物を、作った農家が直接販売している市場です。だからこそ鮮度の良いものを手頃な価格で購入できると喜ばれています。私自身は、りんご農家を営んでいます。春になれば、りんごは店で見かけなくなり、板柳ではスマートフレッシュ処理により、新鮮なりんごを一年中販売しているんです。蜜がたつぶりの希少なりんごもありますので、ぜひ一度お立ち寄りください。

会津 宏樹さん



ふるさとセンターとりんごワーク、りんごが素材の創作工房「工芸館」の受付と、施設案内を行なっています。ここでは、りんごについて学んだり、りんごクッキー、りんご草木染、りんごの木の灰を使った陶芸などを体験し、温泉に入ってコテージに泊まったり、いろんなことができます。農業体験では、りんご収穫のほかに、ミニトマトなど野菜も収穫できるんです。春になったら新しくなったバーベキュー場や、足湯にも遊びに来てくださいな！

板柳町ふるさとセンター 総合案内所
八幡 史菜さん



おらばめ

田子町には現在、地域おこし協力隊4人と、
起業したOB・4人の合わせて8人が移住し、
地域のために力を尽くしています。
今回はその中から5人を紹介いたします！

目標は、シンガポールにアンテナショップ!!

株式会社 あおいもりトレーディング
代表取締役
ロジカウベル支配人

いがらし たかなお
五十嵐孝直 さん(39歳)



千葉県出身で大学を卒業後、外資系の商社に入社しました。ランチオフィスを提案しシンガポールに6年在住、東京ではロールスロイスのマーケティングを担当しました。このとき茨城県の高級絹織物・結城紬と出会い、販路拡大のため高級車とコラボしてブランド価値を高める事業に携わりました。そこで、地方にはいいものがあるのに困っている現状を知り、自ら事業を始めるときは、地方創生の一翼を担えるようなことがしたいと思いました。

会社を辞めて起業に向けて最初に取り組んだのが、日本で知られてない自分の大好きなシンガポール料理・バクテを世に広め、地方の活性化と結びつけること。バクテは豚のスペアリブを、にんにくやスパイスで煮込んだ料理です。食材の産地を探す過程で、にんにくの産地田子町を見つけ、当時は町で豚も生産されていたので、バクテを作るシンガポールの企業を町とコラボさせ、日本に誘致できないかと考えました。

自ら起業するために地域おこし協力隊の制度を利用して2019年の5月に移住、6月に個人事業として「あおいもりトレーディング」を立ち上げました。コロナ禍で誘致は立ち消えましたが、バクテを自宅で作るスパイスキットを開発・販売。田子産野菜のネット販売も始めました。

次に取り組んだのは空き店舗の有効活用です。メインストリートの呉服店だった空き店舗を購入し、リノベーションして、トレーニングジムを経営する方に貸しています。町に初めてジムができたことは今後の指標になりました。

続いて、観光業の資格を取得。町を案内すると景勝地のほかに活用されていない施設も見学させていて、もっと多くの人に町の身近なところを楽しんでもらいたいと資格を取得し、県に登録しました。

また、田子産のにんにくや加工品などガーリックセンターの商品をシンガポールに輸出し、たっこにんにくを世界へ広める活動も始めました。シンガポールには一次産業がなく付加価値のある日本の農産物は需要があると思ったからです。

そして隊員時代から取り組み、卒業後の現在、指定管理者として運営しているのがロジカウベルです。町が建てた宿泊施設ですが、寝て、食べて景色を見るのだけじゃつまらない。ロッジを起点に遊ぶ要素を付け加えました。1年目は屋外サウナで、プームもあって人気を集めています。来年度は、ロッジのある大黒森をバギーで周遊し、十和田湖方面から、道路に川が流れている川またぎなどを楽しんでもらおうと整備を進めています。

今後は山の下にある創遊村をもっと活用し、町内のお店や団体と連携して、田子を訪れた人の滞在時間を長くする取り組みがしたいです。これまで自分が経験してきたことを田子町で生かしながら、自分にしかできない仕事がしたいのです。なんでも急に逆転することはありません。でも協力隊員を増やすことで、町の雰囲気は変わってくると思います。

現協力隊員の木村さんは、田子にパン屋さんをオープンさせようとしています。大村さんは農業、大西さんは動画など今まで目をつける人がいなかった分野、吉村さんは新卒で来てくれたのが嬉しいです。本当はもっと大きい資金を使って変えたいけれど難しい。ならば地道な一歩の積み重ねで変えていきたい。

これからは稼働していないスキー場のリフトなど、今あるものを活用し、ロッジ周辺をもっと充実させたい。そしていつか、役場の皆さん、にんにく農家さんと共に、シンガポールに田子町や青森県のアンテナショップを作りたいと考えています。



春にパン屋をオープンします！

田子町地域おこし協力隊

きむら はるき
木村 治樹 さん(43歳)

神奈川県川崎市から、2021年4月に夫婦で移住しました。大学を卒業後、プロを目指しバンド活動をしていたのですが断念。映画「魔女の宅急便」のグーチョコパン店が好きだったので、パン屋になろうと修行しました。当時、夫婦で仕事ばかりの日々に疲れ、田舎暮らしに憧れて地方を旅する中、青森の印象が良かったので雪の少ない県南を中心に移住先を探しました。

田子町は移住イベントで知り「いきなり店を出すより、地域おこし協力隊として移住し準備をしてはどうですか」と役場の方にすすめられ移住を決めました。

現在は、無添加にこだわり、自分で植えた小麦や農家さんが作っ



た規格外のフルーツでパンを作り、イベントで販売しています。春からは町内(上郷地区)にパン屋さんを開店させる予定です。

首都圏にいた頃は、隣に誰が住んでいるのかわからなかった。でも今は地域の人たちと交流があり、真逆の生活です。田子町には、五十嵐さんをはじめ、町を盛り上げようと挑戦している人がたくさんいます。そういう方々と自分が関わることで、これからもっとおもしろいことができると思います。旧校舎を活用した「パン祭り」もその一つで、地域に新たな可能性を広げていきたいです。

昨年子どもが生まれたので、まずは家族3人が幸せに暮らせるように頑張りたい。それは挑戦という意味で移住した自分たちが、店を構え、経営を成り立たせることで、後に続く人が安心して移住し、好きなことに取り組み合えると思うからです。



起業の手段に選んだのは農業でした

田子町地域おこし協力隊

おおむら ゆうた
大村 優太 さん(33歳)

三戸町出身で、釣りが大好きだったので、山梨県富士河口湖にある釣具メーカーに就職しました。結婚して2人の子どもを育てる中、仕事を頑張れば頑張るほど子育てが疎かになる。釣りがしたくて山梨に勤めたのに、それでもない。もっと幸せに暮らしたいと2024年4月、青森に戻りました。

会社員時代からずっと起業を考え、食は絶対必要なので、その手段を農業にしました。八戸圏域に住もうと考えた時、高品質なんにく栽培に取り組む田子町でにんにくを作ろうと思いました。ところが、役場で詳細な数字を見ると、機械、技術、広大な土地がなければ、にんにくは難しい。そこで、狭い面積でも収量を上げられ、



価格も安定。小さめの土地を借りてビニールハウスさえ建てればシステムチックにできる。土を使わない農法なら単価が安定し、通年栽培で雇用も安定するので、トマトを選びました。

役場でトマト作りのプロを紹介してもらい、1年目は土を使った慣行栽培、2年目は苗を育てる練習、準備が完了したらなるべく早くトマトの水耕栽培を始めようと思っています。にんにくの栽培については、にんにくの栽培業務を通じて勉強していきたいです。

地域おこし協力隊になって、良かったのはいろんな人に会えたこと。協力的な人が多く、いい方向に進めそうです。とにかく早く起業して会社を設立し、収入を得て、商品開発や販売も手がけたい。家建て、フリーな時間を作って釣りをしまくりたい。子どもたちが、親は変なことやってるけど生きていけるんだって教えていきたい。そして儲けるための農業を推進していきたいです。



おらばあ

人と自然の豊かさに惚れて移住

田子町地域おこし協力隊

よしむら ゆうじ
吉村 悠司 さん(23歳)

大阪府出身で、近畿大学を卒業してすぐ、田子町へ移住しました。社会科の教員を目指していましたが、コロナ禍で3年間登校すらできず、人と会えないのに自分は本当に教員になりたいのか、もう一度進路を考えようと1年間休学。自然の中での暮らしを求め47都道府県を、ふるさとワーキングホリデーなどで回りました。

そんな中、地域に興味がある大学生とローカルプレイヤーがつながる「つながるキャンパス」で南部町の方と出会い、そこに元協力隊の五十嵐さんがいて、お試しツアーに参加しました。そこでは自分がこれまで感じたことがない人の温かさに触れ、自分はこういう価値観の中で生きていきたいんだ、ということに気づいたんです。

田子町には、おもしろいコンテンツがたくさんあります。人と地



域資源の豊かさに惚れ、大阪からは簡単に戻れない場所に自分を放り込んで自分を試したいと田子町に移住しました。

現在は田子町の注目度を上げるため、ガーリックたこ焼きを開発して町の文化祭で販売したり、田子町の10年後のまちづくりを考え、子ども達と一緒に活動しています。子どもの居場所づくりとしての「タッコラボ」では、自分で描いた絵を使いAR体験をしてもらいました。

移住してよかったと思う点は、応援される環境で過ごせるということです。将来は、首都圏から若者が青森に来る仕組みを作り、人の温かさを知ってもらうツアーなど企画したいと思っています。



クリエイティブな分野で町を盛り上げたい

田子町地域おこし協力隊

おおにし かず ま
大西 主真 さん(39歳)

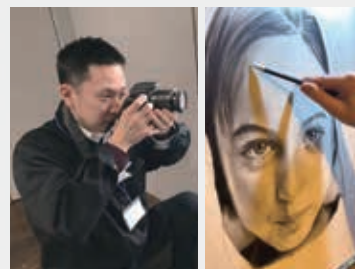
東京生まれで、高校を卒業後、ブレイクダンスの講師を7年、その後工務店での職人を経て、車中泊しながら日本一周をしたり、東南アジアを旅したあと、2024年11月1日から田子町で地域おこし協力隊をしています。

元々東京暮らしが合わないと感じていて、移住セミナーで田子町のことを知りました。熱意あふれる説明に惹かれ個人的に遊びに行くと大歓迎してもらいました。青森をもっと肌で感じたいと太平洋側の町を巡る中、田子町には、おもしろく人間的にも素晴らしい人たちが飛び抜けて多かったんです。元々趣味でイラストを描いたり、写真を撮ったり動画も制作していたので、この分野で地域の役に立ち、生きていけたらと思い移住しました。



現在は町の広報紙の写真撮影や、SNSで町の素敵なおところを発信しています。実際に田子町で暮らしてみると、想像よりも優しい人たちが多く、いつも親切にしてもらっています。

とにかくご飯が美味しくて、空気が透き通り、目に入る景色が、いちいち息を呑むような美しさなんです。将来は、できれば田子に定住したいと思っています。仕事に関しては、田子はもちろん、青森県や東北全体を盛り上げるような活動のお手伝いを、クリエイティブな分野で成し遂げたいです。そして、田子町のなんにいくでも景色でもない、一番素敵なお人をフィーチャーしていきたいです。まずは青森県と田子を知ることから始めていこうと思います。



あいちゃんの読んで得だね!

今回「やすらぎ」の取材で訪れた田子町と板柳町のおき情報をお届けします。

たっこにんにくまつり

《田子町》

第18回「たっこにんにくまつり」が2月22日、田子町農業者トレーニングセンターで開催されます。

メインは、各お店、趣向を凝らしたオリジナルにんにく料理を味わった人が、投票によってグランプリを決定する「NINNIKU料理オンリー1グランプリ」！訪れた人は誰でも投票できますよ。

ほかにも、田子町を盛り上げたい人を募集して行う「ガーリックレディコンテスト」、田子町自慢の温かい鍋料理の提供、特産品や加工品の販売も行われます。

田子町恒例の冬のイベントに、ぜひ訪れてみませんか！



■詳細・お問い合わせ

にんにくまつり実行委員会事務局
(田子町役場商工振興課内) TEL: 0179-20-7114

りんごの里 いたやなぎ雪まつり

《板柳町》

板柳町の冬の催し「第36回りんごの里いたやなぎ雪まつり」が今年も2月11日、板柳町ふるさとセンターで開催されます。

恒例のみかんまき、餅つきのほか、お汁粉や、巨大な「もつけ鍋」で作る豚汁の振る舞いもあります。

ほかにもジャンボ滑り台、豪華賞品が当たる大抽選会など、イベントが盛りだくさん！

家族や友達を誘って、参加してみませんか。



■詳細・お問い合わせ

板柳町商工観光課 TEL: 0172-55-8033

んにく風味の美味しさなんです。今はイベント等で販売されていますが、春にはお店を開業する予定です。



♡「田子のそば茶」は、ただ今売り出し中！ 町内のcafe & 雑貨Daisyで購入できます。田子でとれた筍で作った「味つけメンマ」は直売所つなぎにありました！



♡そして、サンモールたっこ商店街にある山田洋品店の「山田子」シリーズ。バッグ、手ぬぐい、Tシャツ、キャップなど種類も豊富で、全てが田子愛にあふれていました。



《板柳町》

♡板柳町のお土産は、ふるさとセンターの工芸館へ。売店では、りんごジュースやジャムのほかに「りんごシードル」が売られていましたよ。酸味と甘味のバランスがとれた、りんご本来のフルーティーで芳醇な味だそうです。



りんご菓子工房の「りんごファイバー入り手作りクッキー」は人気の商品。やさしい味です。りんご草木染工房では、りんごの葉っぱや枝を煮こんだ自然の色の糸や小物が売られていました。



そしてここでは「アップルパイ」「アップルブラウニー」「りんごのアイスクリーム」などがいただけるんです。



パイとブラウニーは温めてくれるんですよ。美味しかった～。

♡ランチタイムは、温泉がある青柳館のレストランへ。りんごがゴロゴロ入った「りんごカレーライス」、ポリューミーな「ソース焼きそば」「さば味噌定食」、新商品の「ホタテフライ定食」が人気だそう！



▲りんごカレーライス



▲ソース焼きそば



▲さば味噌定食



▲ホタテフライ定食

食後は、りんごジュースとアップルティーをいただきました。



編集部の
あいちゃん
で～す！



あいちゃんのほのぼのコーナー

——にんく!? 田子町の巻——

♡取材こぼれ話



《田子町》

♡田子町のにんにく料理を味わいに、にんにく専門ショップ田子町ガーリックセンターのレストランへ。冬限定メニューの「ガーリックカルボナーラ」は、東京・渋谷で大人気のにんにく料理専門店が監修し、緑のたまごを使った濃厚な美味しさ。



「ガーリックフライドポテト」は、田子町の姉妹都市・アメリカのギルロイ直伝の味だそうです。ほかにも「田子にんにくビーフカレー」「ガーリックピザ」「ヘーデルハンバーグ」「にんにく肉まん」は、にんにくが程よく効いて美味!



「にんべこラーメン」は、希少な田子牛すじとにんにくラーメン(麺ににんにくの粉末を練りこんである麺)を使用。風味がたまらない。



そして毎年リニューアルしている「田子ガーリックステーキごはん」は、にんにく入りコーラ、にんにく創作料理、



ガーリックステーキ寿司に、ガーリックアイスまで食べられる、とってもお得なごはんでした。「にんにくソフトクリーム」は、にんにく入りミルクと黒にんにく入りチョコのミックスをいただきました。

♡お土産もガーリックセンターで。人気の「ジャガめぐポテトチップス」は、本当にクセになる美味しさで、何袋も買っちゃいました(笑)。



「田子バクテースープ」は、おらほの一番で紹介した五十嵐さんが開発したんですよ。

「TAKKOスタンド」や「ラバーバンド」もありました。



♡地域おこし協力隊の木村さんが開発したパンのガーリックフラワーは、に

くみあい 情報板

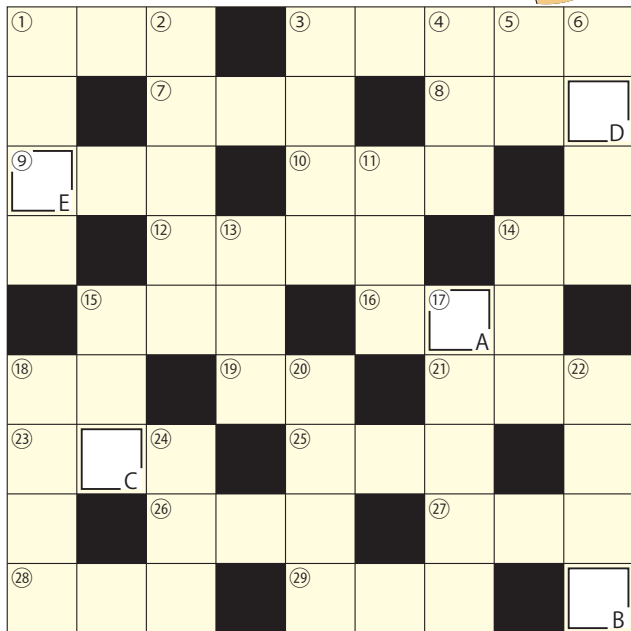
謹 賀 新 年

事務局 局長	階上 町長	佐井 村長	六戸 町長	田舎館 村長	鯉ヶ沢 町長	議員	三沢 市長	副議長	議長	議員	監査委員	副組合長	組合長	役員
富士	荒谷	太田	佐藤	品川	平田	小檜山吉紀	船橋	茂久	富岡	高樋	工藤	祐直		
和良	憲輝	直樹	陽大	新一	衛				宏	憲				
外職員 一同	(7区)	(6区)	(5区)	(4区)	(3区)	(1区)	(2区)							

組合ホームページをご利用ください <https://aomori-taite.jp>

(内容/お知らせ・概要・例規集・様式・事務の手引・試算・構成団体決算状況・組合回報誌「やすらぎ」・リンク集)

あいちんの クロスワードパズル



パズル制作：エッグハウス

□の中の文字をABC順に並べると、ある言葉ができます。
(ヒントは「やすらぎ」の中にあります。)

はがきにクロスワードの答えと、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、所属市町村名、「やすらぎ」へのご意見、ご感想、メッセージを添えて、〒030-0812青森市堤町2丁目1-1青森県市町村職員退職手当組合「やすらぎ」編集室までお送り下さい。正解者10名様に抽選で素敵なプレゼントを差し上げます。

締切/2025年2月末日消印有効

〈タデのカギ〉

1. 板柳町のマスコットキャラクターの名前は？ 2. 畳や床に穴を開け、その下に火入れを作った炬燵。掘り炬燵ともいいます。3. 東北地方の古称で、今の青森・岩手・福島・宮城の4県にほぼ相当する地域。4. 土地などをいくつかの部分にくざること。〇〇〇〇整理。5. 〇〇格、〇〇質、贈答〇〇。6. 見てすぐわかる、しるしや目標。この看板を〇〇〇〇においでください。11. シャクナゲもブルーベリーも〇〇〇〇科の植物です。13. 別の場所へ移ること。「次の会場へ〇〇〇する」。14. 麻雀由来の言葉で「参加者」「顔ぶれ」の意味。〇〇〇が揃う。15. 本当の値打ち。〇〇〇が問われる。17. 「板柳町の昆虫」は、花から花へ飛び回る働き者の〇〇〇〇〇〇です。18. 田子町は平成4年、環境庁により「〇〇〇〇日本一」に選ばれました。20. 間接的に伝え聞くこと。噂を〇〇〇〇する。22. 「津軽の七草がゆ」とも呼ばれる、津軽地方に伝わる郷土料理。24. 同じことを繰り返し決着がつかないことを何ぞここというでしょう。

〈ヨコのカギ〉

1. 赤飯やお汁粉を作るのに使う、赤い色をした豆。3. 田子町が開発し、平成29年に品種登録されたにんにくの新品種の愛称は？ 7. あと一つ数字が揃えばビンゴ!の状態。8. 今から3500年ほど前に中国で作られた、日本でも使われている文字。9. 真夏の2日間、「ノレサ!ノレサ!」の掛け声が響き渡る、板柳町の〇〇〇〇灯まつり。10. ドアをコンコン。入ってますか？ 12. することがなくて時間を持て余す。あーあ、〇〇〇〇だなあ。14. ごはんのこと。焼〇〇、晩〇〇、朝〇〇前。15. 空気中に含まれる水分の割合。これが高いとジメジメして気持ち悪い。16. 自分で自分のことを他人に誇る。腕〇〇〇、のど〇〇〇。18. 英語でBOOK。19. 今年は巳年。では来年の干支は？ 21. その人が良からぬ行いをしないよう監視する役を「お〇〇〇〇役」といいます。23. イベントの進行をつかさどること。〇〇〇者、総合〇〇〇。25. 「〇〇〇王子」は、田子町のにんにくイメージキャラクターです。26. 「薪」という漢字の訓読み、「まき」ともうひとつは何？ 27. 馬の肉を薄く切って生で食べる日本料理。28. お昼ご飯。〇〇〇タイム。29. 白菜などの野菜を調味料で漬けた、韓国の代表的な発酵食品。

前回パズルの当選者

厳正な抽選の結果、次の10名様が当選しました。おめでとうございます。
(応募数65名)

〈前回パズルの解答〉

すかいぷらざ

〈所属市町村等名・氏名〉

黒	石	市	對	馬	弘	樹	田	舎	館	村	石	川	真
黒	石	市	菅	家	千	夢	五	戸	町	金	澤	裕	美
三	沢	市	太	田	静	香	南	部	町	小	林	秀	美
む	つ	市	四	ッ	谷	裕	十和田地域広域事務組合	野	月	隆	之		
平	川	市	葛	西	彩	弥加	一部事務組合下北医療センター	村	上	遥			